

Corporate Profile

レゾナック 会社案内

RESONAC

Chemistry for Change





Chemistry for Change

Purpose 存在意義

化学の力で社会を変える

先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、
グローバル社会の持続可能な発展に貢献する

Values 私たちが大切にしている価値観

- ▶ プロフェッショナルとしての成果へのこだわり
- ▶ 機敏さと柔軟性
- ▶ 枠を超えるオープンマインド
- ▶ 未来への先見性と高い倫理観

目指す姿

統合新会社の中長期の方向性を定めた長期ビジョン（2021～2030）にて「世界トップクラスの機能性化学メーカー」を目指す中で、質的な面、計数的な面それぞれを備えた「世界で戦える会社」、イノベーションと事業開発力で「持続可能なグローバル社会に貢献する会社」、他企業からも注目されるような「国内の製造業を代表する共創型人材創出企業」を実現していきます。

日本発の「世界トップクラスの機能性化学メーカー」

世界で戦える会社	持続可能な グローバル社会に 貢献する会社	国内の製造業を 代表する 共創型人材創出企業
ワールドクラスの 事業競争力と収益力	イノベーション力と 事業開発力	共通の価値観を持つ 競争力のある人材の 育成力

技術の進歩の結果、人々のくらは物質的に豊かになった一方で
その代償として地球環境は危機的状況にあります。
この矛盾を解消することはこれからの社会にとって最重要課題。
あらゆる産業の起点にある化学がさまざまなステークホルダーと共創すれば、
その課題を解決できるのではないのでしょうか。

その一方で、物事を根源から変える力を持つ化学は
光をもたらすこともあれば、影を落とすこともあります。
私たちが目指すのは、何世代にもわたって地球環境と人々の幸福の両立に貢献する化学。
そのために、時代が求める技術と機能を先んじて描き、創り、化学の力を正しく活かしていく。

私たちの基盤は、川中から川下まで幅広く自在な最先端の機能材料テクノロジー。
その上で、社会課題とその原因を鋭く可視化し、解決に向けてイニシアチブを発揮していく。
そのためには、化学業界に閉じた個社の事業活動にとどまっては足りないと考えています。

化学企業としてグローバルで活躍する実力を備え、
機敏かつ柔軟な行動と意思決定をもって、
産業のキープレーヤーから生活者に至るまで
志を共にする仲間とよりよい社会を共創していく。
私たちは、“共創型化学会社”として、化学の力で社会を変えていきます。

History

あらゆる産業の起点となる 化学の力で、社会に貢献

昭和電工株式会社と昭和電工マテリアルズ株式会社は、2023年1月1日に統合し、新会社「レゾナック」に生まれ変わりました。私たちは、統合新会社の誕生を「第2の創業」と位置づけ、世界トップクラスの機能性化学メーカーを目指しさらなる変革を進め、時代の要請や社会変化による様々な課題に独創的な開発と提案で応え続けていきます。

-1960s

戦後復興と 高度成長

戦前から戦後の食糧不足により、安定した食料供給が課題に。戦後は、製造業を軸とした高度経済成長期へ突入。

1970s-1980s

省エネルギーや情報化社会、 新たな時代の転換期

1970年代に起こったオイルショックを契機に省エネルギー型製品の開発が加速。また、情報技術の高度化も進み経済・産業は新たな時代へ。

1912

電気製品に欠かせない、 電気絶縁ワニスの 国産化に向け研究開始

当時、輸入に頼っていたモーター用絶縁ワニスの研究を開始。1914年に国産化に成功。



1931

化学肥料の製造で、 戦後の食糧不足を解消

国産法による硫酸の製造に成功。



1934

日本の産業発展に 国産アルミニウムで貢献

日本で最初にアルミニウムの商業生産を開始。



1955

電子回路の 大量生産を実現し 家庭のテレビ普及にも貢献

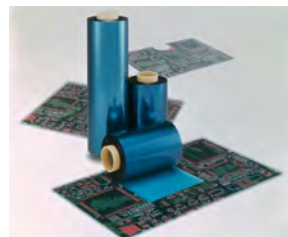
プリント配線板用銅張積層板「MCL」の製造開始。



1978

電子回路製造の エコ化に貢献

溶剤を使わず環境にやさしいアルカリ現像感光性フィルム「フォテック」販売開始。



1984

高画質な液晶画面で、 ディスプレイを進化

ディスプレイ用回路接続フィルム「ANISOLM」の製造開始。液晶画面の高精細化を実現し、その用途は電卓や時計からパソコン等へと拡大。



1988

ハードディスク事業に 進出し、高速通信社会を 素材開発で牽引

ハードディスク事業へ進出。2005年には、ハードディスクの大容量化を実現する。世界初の垂直磁気記録方式ハードディスクの量産開始。



● 昭和電工

電気化学をルーツに持つ昭和電工の技術は、無機化学・有機化学・金属材料へと発展を遂げ、現在は情報通信モビリティ分野で用いられる素材・部材や生活に必要なさまざまな製品に受け継がれています。

● 昭和電工マテリアルズ (旧 日立化成)

創業以来培ってきた、素材特性を活かした材料設計技術による製品開発力を強みとして、半導体材料など情報通信やモビリティ分野を中心に、新たな機能・価値の創造に取り組んできました。

1990s-2000s アナログからデジタル、 通信の高速化

1990年代には、パソコンや携帯電話が一般社会に普及。さらに、2001年の3Gを皮切りに4G・5Gと技術革新が進み、情報サービスだけでなく、あらゆる産業のデジタル化が加速。

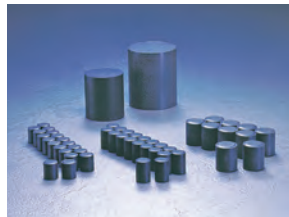
2000s- 持続可能な社会を 目指して

温室効果ガスの抑制を目指し、1997年に採択された「京都議定書」・2015年の「パリ協定」、そしてSDGs。環境への配慮、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが本格化。

● 1992

電子機器の
信頼性を高める
半導体の高密度化に貢献

熱による半導体封止材のひび割れを解消する、耐リフロー性エポキシ樹脂封止材の販売開始。



● 1998

電子機器の充電効率を
向上させ、
省エネ・小型化を実現

充電効率を向上させるリチウムイオン電池用負極材の量産開始。



● 1998

通信機器に欠かせない
高密度な半導体の生産性向上

STI用CMPスラリーの製造開始。半導体ウェハの回路形成時の高速研磨を可能にし、半導体の生産性と高密度化を実現。



● 2001

軽量化で、
モビリティの未来に貢献

長年培った樹脂成形技術により、日本で初めてバックドアモジュールの樹脂化に成功。軽量化による燃費向上、CO₂削減に貢献。CASE進展の鍵に。



● 2003

脱炭素、資源循環を
実現する
ケミカルリサイクル

プラスチックケミカルリサイクル事業開始。2022年にはリサイクル量累計100万トン達成。



● 2017

世界最高レベルの
電極品質で、
鉄資源をリサイクル

黒鉛電極事業を営むSGL GEを買収。さらなるグローバル展開へ。



● 2023

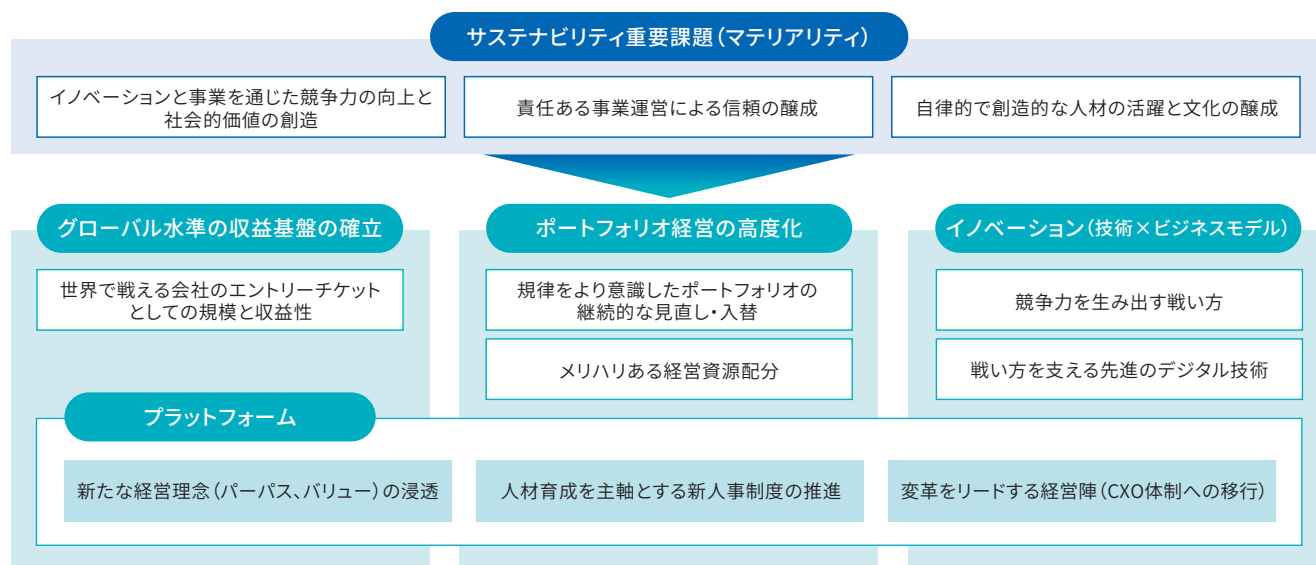
統合新会社誕生

RESONAC
Chemistry for Change

持続可能な社会の実現に向けた、 私たちのビジョン

主要戦略

長期ビジョンでは、「サステナビリティ」を全社戦略の根幹と位置づけました。「世界トップクラスの機能性化学メーカー」に向け、「プラットフォーム」を確立させ、サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）を組み込んだ「グローバル水準の収益基盤の確立」「ポートフォリオ経営の高度化」「イノベーション」の各戦略を推進していきます。



事業を通じたSDGs達成への貢献

企業活動の中心を、循環型社会を目指す共創型化学会社としての12番と17番への貢献と位置づけました。事業・製品を通じて貢献するゴールを上の半円に、事業基盤を通じて自らが貢献するゴールを土台におきました。既に事業を通じて貢献している領域を超え、その先の「化学の力で実現したい未来」への貢献を目指します。





資源循環で社会を変える

プラスチックケミカルリサイクル事業の推進と
大規模水素利用に向けた共創

使用済みプラスチックの 有効な活用法を 見出すために。

私たちの生活に身近なプラスチック。その処分方法はこれまで埋め立てや焼却、海外輸出によるところが大きく、焼却による有害物質の発生や近年の廃プラスチック輸出規制に伴い、環境にやさしく利用価値の高いリサイクル方法が求められています。

当社は、2003年から使用済みプラスチックを化学品原料にリサイクルするケミカルリサイクル事業を開始。使用済みプラスチックは高温でガス化し分子レベルまで分解、水素と二酸化炭素を取り出し、水素は主に当社製品である低炭素アンモニアの原料に、二酸化炭素はドライアイスなどに使用しています。

使用済みプラスチックの リサイクル 累計100万トン进行達成。

当社では、ガス化ケミカルリサイクルによる低炭素水素を利用したアンモニアを世界で唯一、長期にわたり生産してきました。その地道な取り組みは、2022年に使用済みプラスチックのリサイクル量、累計100万トンという成果につながりました。

脱炭素と資源循環を、 共創力で。

地域循環型水素地産地消モデルとして環境省に採択された実証事業では、使用済みプラスチックを分解し、取り出した水素をホテルの燃料電池に供給。実証事業終了後の現在もその活動は継続

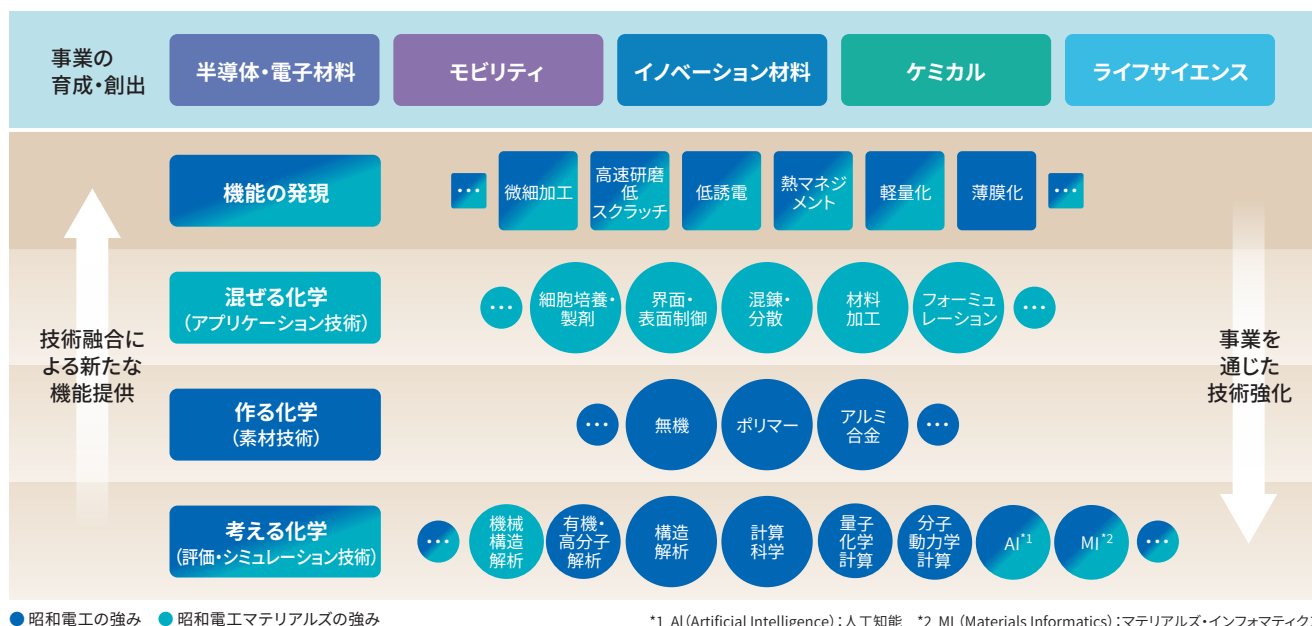
しています。今後もこのケミカルリサイクル事業と多年にわたって蓄積されたノウハウを活かし、当社のサステナビリティ戦略を代表する事業のひとつとして、積極的に脱炭素社会・循環型社会の構築に貢献していきます。



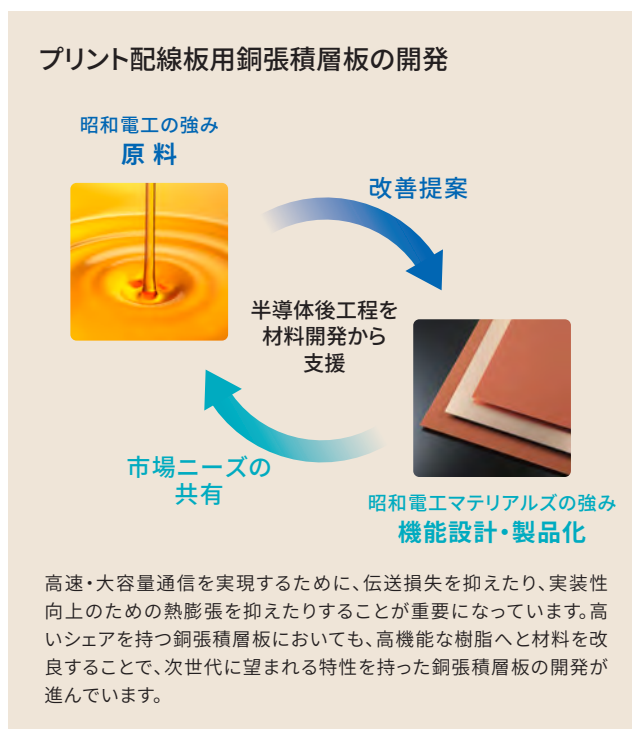
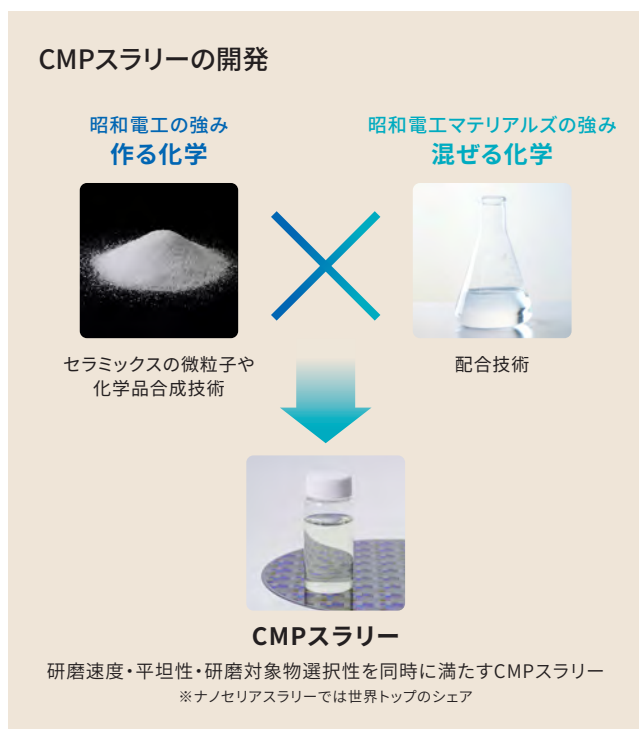
統合によるシナジーを発揮し、 先端材料パートナーへ

技術の融合で、新たな価値創出を

レゾナックは昭和電工の素材技術と昭和電工マテリアルズのアプリケーション技術を併せ持つ化学会社として、統合によるシナジーを最大限に発揮します。「混ぜる・作る・考える」3つの化学の融合により、市場に幅広い機能を提供し続け、事業を育成・創出するとともに事業を通じ継続的に技術を強化します。この好循環によって自律的なポートフォリオ変革と持続的な高成長を実現します。



事業の現場におけるコラボレーション





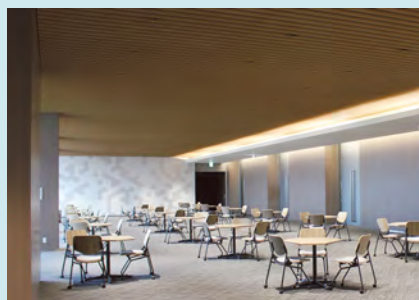
イノベーションで社会を変える

先端分野の研究開発を担う中枢拠点「共創の舞台」
社内外との共創による長期R&Dの取り組み

社会課題解決に向け、 共創型人材の育成を。

共創型化学会社を目指す第一歩として、技術者が組織を理解し、新たな仲間たちに関する情報を得ながら、環境や社会の変化に機敏に対応することが求められています。一方で、技術者からは組織の枠組みを超えた新しいネットワークで社会課題の解決に貢献したいという声が上がっていました。

この自発的な意思を守り育てるため



に、共創型人材を育成する取り組みを開始。2022年には環境・エネルギー分野での材料開発など先端分野の研究開発を担う「共創の舞台」を開設。社内外と連携し技術革新を目指すオープンイノベーションの場として共同研究や人材交流を図っていきます。

サステナブルな 事業創出につながる 活動支援・強化と基盤づくり。

「共創の舞台」では、次世代高速通信材料やプラスチックリサイクルなど、次世代に貢献する長期R&Dテーマを設定。また活動を支援・強化する基盤として、「サステナビリティ」・「技術データ」・「コーチ・メンター」の3つのプラットフォームを設置。サステナビリティマインドの醸成や技術データベースの創

出、持続発展的な価値創出の場となる風土作りに取り組んでいきます。

多様な技術をつなぎ、 持続的社会的実現を 貢献する舞台に。

統合によるシナジーを発揮し世界No.1の技術・製品を生み出し続けるために。「共創の舞台」では、全社の多様な技術をつなぐ事業横断的な技術支援機能も担います。さらに、地域や海外にも開いた施設として社内外の協働・共創の機能を有し、イノベーションを加速させていきます。

Segment Information

機能性化学メーカーとして 社会を支え、次代を切り拓く

半導体・電子材料セグメント

半導体前工程材料 / 半導体後工程材料 / ハードディスク / SiC

半導体製造の前工程・後工程を幅広くカバーする製品を展開し、ワンストップソリューションを提供しています。
半導体の技術革新を素材の力で牽引していきます。

電子材料用高純度ガス



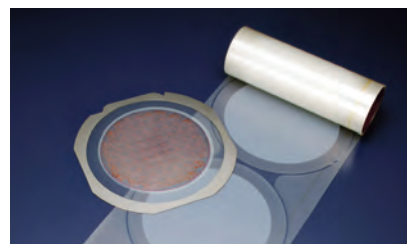
半導体や液晶パネル、LED、太陽電池などをつくる過程で使用される、臭化水素、塩素、フッ素系など、20種類の高純度ガスを生産しています。

CMPスラリー



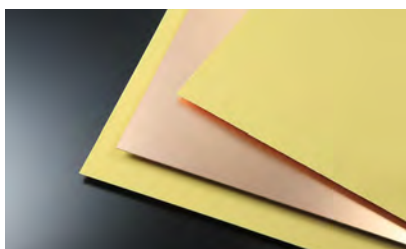
半導体集積回路の製造プロセスにおける、絶縁膜や配線層などの凹凸を平坦化するための研磨材料です。浅溝素子分離や層間絶縁膜用として研磨傷の少ないセリア砥粒スラリーのほか、銅配線形成用のシリカ砥粒スラリーもラインアップしています。

ダイボンディングフィルム



ICチップをパッケージ基板などに接着するための材料です。高い接着強度に加え、熱膨張率の差により発生する基板の歪みを緩和する役割も果たし、半導体パッケージの信頼性確保に貢献しています。

ガラスエポキシ多層材料「MCL」



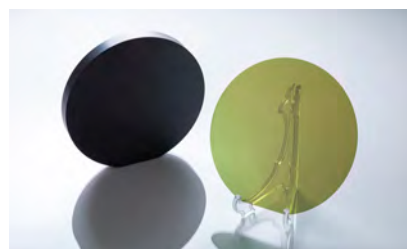
ガラスクロスにエポキシ樹脂を含浸させ、その両面に銅箔を貼り付けた材料です。高耐熱性、高弾性、低熱膨張などの特長を有し、プリント配線板や半導体パッケージ基板に使われています。

ハードディスク



世界最大のハードディスク外販メーカーとして、最先端技術を駆使し、次々と大容量化を実現するとともに、お客さまからのご要望にスムーズに対応できるよう、最適な生産・供給体制を構築しています。

SiCエピタキシャルウェハー



省エネルギー化が期待される次世代のパワー半導体に使用される材料です。すでにデータセンターのサーバー電源や鉄道車両向けデバイス、EVオンボードチャージャーへの採用が進んでいます。



共創力で社会を変える

半導体実装材料・プロセスのオープンイノベーション
パッケージングソリューションセンターの取り組み

限界という現実に向き合う。

パソコンやスマートフォンなどにも使用されている半導体は、これまで高集積化・低コスト化によって発展してきました。また今後は、5G・6Gといった次世代高速通信やAI、機械学習、自動運転など、さらなるデジタル社会の広がりが期待され、より高度な半導体技術が求められています。

しかしながら、回路を小さく作り込み、集積度を高める微細化技術は複雑を極め、もはやその技術は限界を迎え



ているというのが現実でした。そこで、注目を集めているのが複数のチップを積み重ねて性能を高める3次元の半導体パッケージ技術です。

オープンイノベーションを加速する。

スピードが求められる半導体のパッケージ開発。その実現に向け設立されたのが、半導体実装でトップ技術を有する企業が参画するコンソーシアム「JOINT」です。

複数の企業との間で技術や情報を相互活用できれば、半導体パッケージの製造に必要な材料やプロセスの最適な組み合わせ、さらには今までにない新しいプロセスや構造など、総合的なソリューションとしてすばやくお客さまへ提供できるようになります。



最新鋭の環境で、志を共にする仲間たちと。

専用フロアは最先端の半導体実装装置が導入されており、先端パッケージに対応した試作・評価の一貫ラインで、製造プロセスをトータルに再現することができます。試作段階から材料メーカー、装置メーカーが互いの悩みを共有し、ともに解決することができれば、開発スピードが向上します。「JOINT」という共創の場から、新たなイノベーションが生まれようとしています。

Segment Information

モビリティセグメント

自動車部品 / リチウムイオン電池材料

CASE、特にxEVの進展に伴い、当社の軽量化、電動化、熱制御技術など、次世代自動車に求められる製品・技術開発に注力しています。



樹脂製バックドアモジュール



従来金属製であった自動車用バックドアを樹脂化し、バックドアの各種部品と組み上げたモジュールを製造・販売しています。強度、剛性、耐衝撃性に優れた複合材料を使用し、車のデザイン自由度の向上や軽量化を実現しています。

樹脂ギヤ



高強度樹脂ギヤは、アラミド系強化繊維を基材とし、高強度・高耐熱ポリアミド樹脂を注入硬化させた「コウベライトKM-9100」を歯切り加工したものです。従来のプラスチック製ギヤでは使用できなかった過酷な負荷・環境条件下での使用が可能です。

リチウムイオン電池材料



リチウムイオン電池市場において、負極材、安定高品質の正負極用導電助剤「VGCF」、アルミラミネートフィルム「SPALF」などを展開しています。

ケミカルセグメント

石油化学 / 化学品 / 黒鉛電極

さまざまな産業の起点・インフラとなる製品を提供するとともに、製造工場のCO₂排出量削減などカーボンニュートラルに向けた技術開発に取り組んでいます。



エチレン



さまざまな石油化学製品の原料となるエチレンを、ナフサ以外の原料も使用（原料多様化）して製造し、資源の有効活用や高いコスト競争力に貢献しています。

アンモニア「エコアン」



「エコアン」は使用済みプラスチックを原料の一部に使用した低炭素アンモニアです。使用済みプラスチックを使用した製法は、製品の品質は従来品と同等にもかかわらず、製造時のCO₂排出量を従来法に比べ80%削減しております。

黒鉛電極



電気製鋼炉で鉄のスクラップを溶解するための部材で、鉄のリサイクルに役立っています。当社の黒鉛電極は優れた品質で、世界各国のお客さまから高い評価をいただいています。

イノベーション材料セグメント

機能性化学品 / 樹脂材料 / コーティング材料 / セラミックス / アルミ機能部材

当社の事業群のイノベーションや競争力強化を支える技術プラットフォーム事業として、幅広い技術・素材を提供しています。

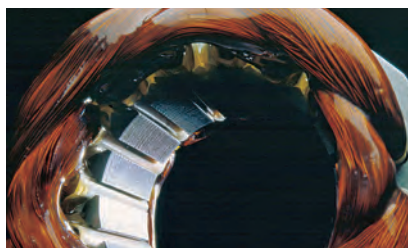


合成樹脂エマルジョン 「ポリゾール」



水を媒介に使用して有機溶剤などを含まない、環境への負荷が少ない合成樹脂エマルジョンです。住宅建材・建築・繊維・紙加工など様々な用途に使用されています。

電気絶縁ワニス



各種モーターやトランスのコイル含浸用および銅線エナメル用の電気絶縁材料です。高耐熱・高強度・高固着力など、各種電気機器に要求される優れた特性を有した製品を幅広く揃えています。

ノンスティック・コーティング剤



調理器具や家電製品などの消費者向け製品や、自動車・産業機器などの工業製品に塗布される、焦げ付き、汚れ防止を目的とした材料です。

コンデンサー用セラミックス



高純度酸化チタン「スーパータイタニア」は、身近な電子・電気機器に使用されるセラミックコンデンサーの主要原料です。

アルミニウム製品 (鋳造棒・鍛造品・押出品・冷却器)



合金鋳造・設計技術や鍛造・押出・接合技術を活かし、自動車用部材、鉄道車両構造体、プリンター用感光ドラムや電動車用冷却器等のアルミニウム製品を提供し、軽量化に貢献しています。

その他セグメント

その他セグメントでは、再生医療等製品[※]の製法開発・受託製造などを行っています。

[※]人または動物の細胞に培養等の加工を施したもので、疾病の治療・予防を目的として使用するもの

再生医療等製品の製法開発・受託製造サービス

Minaris Regenerative Medicineでは、製薬会社などからの委託を受け、品質管理システムを導入した無菌製造施設で、再生医療等製品の製法開発・受託製造を行っています。日欧米に拠点をもち、グローバルな供給体制の下、再生医療の普及に貢献しています。

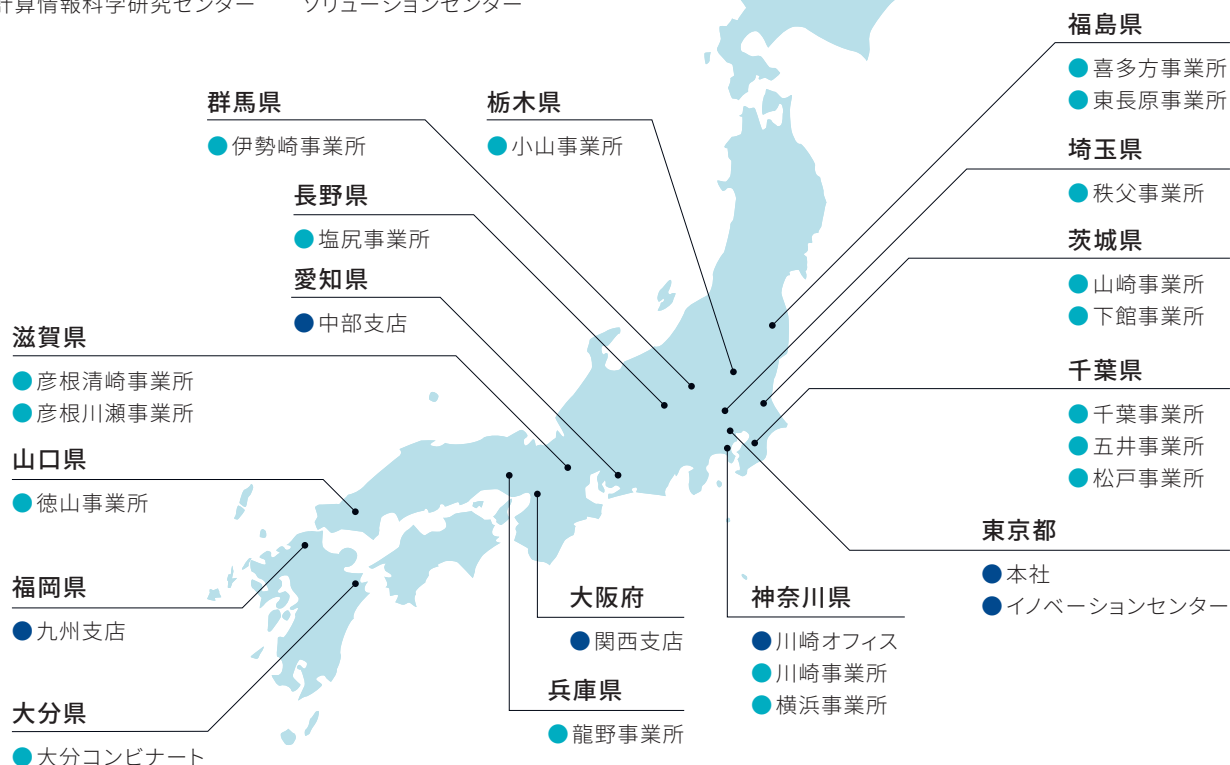


国内拠点

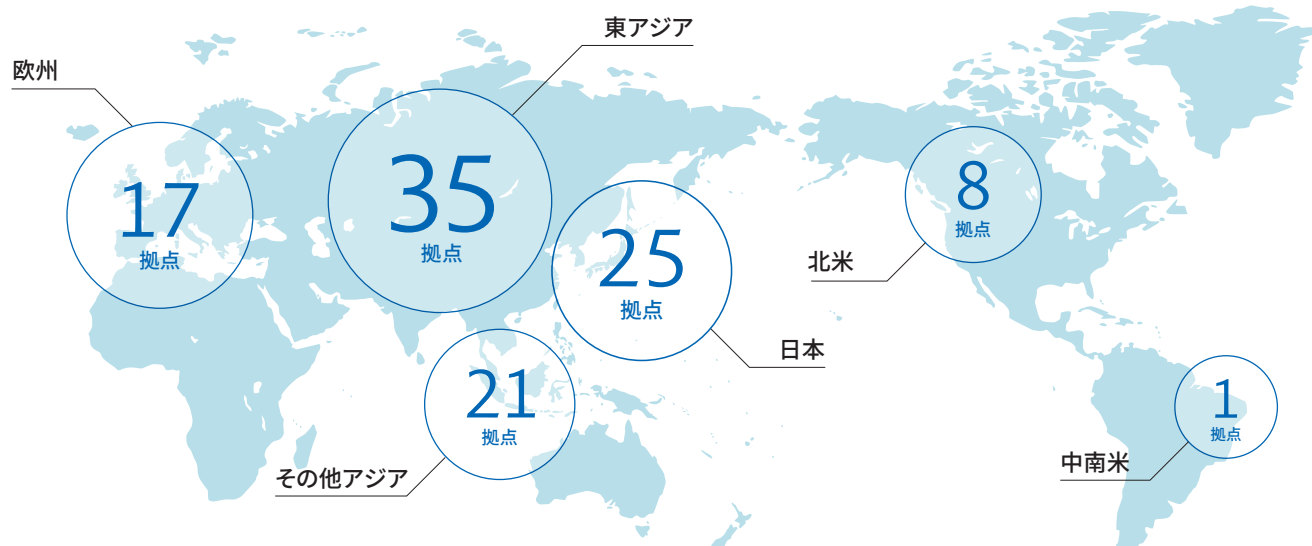
● 営業拠点
● 製造拠点

研究開発拠点

- 先端融合研究所
- 共創の舞台
- 高分子研究所
- パッケージング
- 計算情報科学研究センター
- ソリューションセンター



海外拠点



会社概要

社 名	株式会社レゾナック
設 立	1962年10月
資本金	155億円
本社所在地	〒105-7325 東京都港区東新橋1-9-1 東京汐留ビルディング
連結売上高 [※]	1兆3,926億円 セグメント別売上高 半導体・電子材料 4,272億円 モビリティ 1,806億円 イノベーション材料 1,411億円 ケミカル 5,278億円 その他 1,159億円
国内外売上高構成比 [※]	国内44.3% 海外55.7%
連結従業員数 [※]	25,803人
連結従業員構成比 [※]	国内49% 海外51%
連結子会社 [※]	108社

※2022年度実績

統合新会社として新たな一歩を踏み出すために、
統合に合わせて社名を「レゾナック」に変更しました。
当社グループは、新社名でのスタートを「第二の創業」と捉え、
グループ内や化学業界だけでなく、さまざまなステークホルダーとの共創を通じて、
先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、
グローバル社会の持続可能な発展に貢献していきます。

RESONAC
Chemistry for Change

社名およびロゴに込めた想い

「Resonac」は、英語の「RESONATE: 共鳴する・響き渡る」と、CHEMISTRYの「C」を組み合わせることから生まれた社名です。当社グループの持つ幅広く自在な先端材料テクノロジーと、パートナーの持つさまざまな技術力と発想が強くつながり一つの未来に向かって大きな「共鳴」を起こし、その響きが広がることでさらに新しいパートナーと出会い、

社会を変える大きな動きを創り出していきたいという強い想いを込めています。

こうした想いを表すため、「Resonac」のロゴデザインにある「R」に右上がりの2本線を施し、共鳴から生まれる共創のシンボルとし、共鳴の輪が広がり共に未来へ挑戦する姿勢を表現しました。

株式会社レゾナック

〒105-7325 東京都港区東新橋1-9-1
東京汐留ビルディング

www.resonac.com/jp